

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州中野きのこ生産の歴史と未来
事業主体 (連絡先)	一般社団法人日本きのこマイスター協会 中野市大字中野1457-1
事業区分	6イ農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,066,228円 (うち支援金: 1,538,000円)

事業内容

中野市のきのこ産業はエノキタケを中心に昭和30年代初頭から始まった。そのエノキタケの生産、販売、消費、機能性、加工品の歴史を中心に、その歴史的価値を明らかにし、きのこの企画展及び子供達を対象にワークショップ及びキッズきのこマイスター認定等のイベントを開催してきのこの魅力を発信。

- ・企画展 (中野市立博物館) : 8月~9月
- ・ワークショップ開催
 - ①8月11日 アップルシティなかの
 - ②9月8日 中野地域職業訓練センター
 - ③9月29日 北信濃ふるさとの森文化公園他
- ・キッズきのこマイスター認定



【企画展の様子】

【目標・ねらい】

- ① 企業的産業へ発展を遂げた経緯と進捗の紹介及びきのこという健康食材の消費普及と加工商品開発の進展を明かす。
- ② きのこ好きになる子供達を育成。

事業効果

- ① 企画展の開催

パネルと実物展示により、子供たちから大人まできのこについての様々な興味と関心に応えた。
また、きのこのファンを増加させ、きのこ生産のサポーターが生まれることに寄与できた。
- ② ワークショップの開催

きのこを使った料理、きのこ栽培の現場視察と収穫、ビン栽培を自ら体験できるキットづくり・野生きのこ観察会などを行い、きのこに親しみ、知識を深めることができた。3回のワークショップにすべて参加した13名の小学生には、「キッズきのこマイスター」が授与された。

※自己評価 【 B 】

【理由】
初回の取り組みとしては予想を超える結果となった。

今後の取り組み

今回展示できた事柄は、収集した資料や証言の一部である。
展示方法や、ワークショップの運営課題 (PR方法、定員数、時期) の反省を生かし、中野市民の皆様を始め、全国のきのこファンが集える「きのこ生産の歴史と未来展」を次年度も実施したい。
また、誕生したキッズきのこマイスターと一緒にきのこの魅力をPRしていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある